

平成 25 年度事業報告および決算

平成26年5月16日



北陸経済連合会

【事業活動報告】

I. 災害時、命を守り、代替補完機能を担うための社会インフラ整備 [社会基盤整備委員会]

1. 北陸新幹線の建設促進に向けた支援・要望活動

- (1) 敦賀延伸の工期短縮に向けた取組み
- (2) 大阪までの全線整備に向けた取組み

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・ 政府・与党等に対する要請活動<ul style="list-style-type: none">・ 北経連単独 (8/7)・ 西経協合同 (10/18)・ 三経連合同 (10/23) 他※・ 敦賀以西 3 ルートの効果の試算、特長・課題の整理	<ul style="list-style-type: none">・ 各要請や経団連との懇談会 (10/31) 等のあらゆる機会を捉えて、金沢・敦賀間の大幅な工期短縮による早期完成、開業および大阪までのフル規格による全線整備についてアピールした・ 各ルートにおける条件に不確定な部分が多い上、関係機関等からの情報収集が困難な状況・ 関係各所との連携を図り、引き続き情報収集に努めていく

※ 参考：県等との連携

合同中央要請 (5/21、11/13)

総決起大会 (5/20(富山)、5/21(東京)、6/15(福井)、8/10(石川))

2. 並行在来線の課題対策への支援

- (1) 並行在来線の安定運営に向けた国や J R の支援施策の検討・要望

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・ 政府・与党等に対する要請活動<ul style="list-style-type: none">・ 北経連単独 (8/7)・ 協議会等への参加<ul style="list-style-type: none">・ 富山県：6 回・石川県：3 回・ 福井県：1 回・ 並行在来線の活性化方策の調査・研究	<ul style="list-style-type: none">・ 各要請等の機会を捉えて、並行在来線の経営安定・利用者の利便性確保等についてアピールした・ 経済界の立場として協議会等に参画し、広域的な視点から議論を行った・ 「北陸新幹線開業に伴う並行在来線の利用促進策に関する調査」を取りまとめ、報告書を公表

3. 高規格幹線道路の建設促進に向けた要望活動

- (1) 中部縦貫自動車道・能越自動車道・舞鶴若狭自動車道の早期全線開通の要望、東海北陸自動車道の四車線化の要望

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・政府・与党等に対する要請活動<ul style="list-style-type: none">・北経連単独（8/7）・西経協合同（10/18）・三経連合同（10/23）	<ul style="list-style-type: none">・東日本大震災以降、代替補完機能の観点で評価され、道路についても一部整備に進展がみられるものの、未だ北陸管内のミッシングリンクは解消されておらず、引き続き要望が必要

4. 港湾・空港の活性化

- (1) 北陸の港湾連携の推進

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none">・北陸地域国際物流戦略チーム「広域バックアップ専門部会」への参画（7/24, 2/20）・南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練（8/1, 10/9）	<ul style="list-style-type: none">・巨大地震が発生した際に北陸側港湾に代替輸送をするための方策、課題解決策等を参加者がその場で考えるワークショップを実施・代替輸送手順に基づいた模擬演習（図上訓練）を実施・太平洋側の物流関係者が一堂に会して、実際に北陸港湾を利用する代替輸送演習を実施できたことに意義あり
<ul style="list-style-type: none">・北陸港湾の利便性拡大に向けての勉強会開催（7/24, 8/1）	<ul style="list-style-type: none">・三県の各港湾紹介など有意義な情報交換ができた
<ul style="list-style-type: none">・北陸地域国際物流戦略チーム「広域バックアップ専門部会」においてポートセールス実施	<ul style="list-style-type: none">・東海地域の荷主、陸運業者、船社、港湾管理者に対して、ワークショップおよび模擬演習を通じ、北陸港湾をアピールできた

II. 広域観光推進 [広域観光推進委員会]

1. 北陸の認知度向上、魅力・満足度向上に向けた取組み

[関連組織：北陸イメージアップ推進会議]

(1) 北陸物語 HP・Facebook を活用した継続的な情報発信

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の旬の話題、トピックス情報の収集・発信 ・Web版の拡充(北陸物語 vol.3 の掲載) 	<ul style="list-style-type: none"> ・累計「いいね」が 8,964(H26 年 3 月末現在)(参考) H25 年 3 月末 3,738 ・福井県のライターを入れることで、三県バランスの取れた記事を発信している

(2) 首都圏でのイメージアップイベントの拡大

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の交通事業者と連携した北陸 PR イベントの実施 ・江ノ島電鉄との連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・湘南・北陸連携カンファレンス開催(10/24) ・湘南・北陸ウィークの実施(2/22～28) ・京浜急行電鉄との連携事業「クイズ北陸物語」の実施(3/1～3/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスには藤沢市が初参加し、地域全体の連携イベントへ成長 ・スイーツ企画電車に 60 名乗車(大半が女性、マスコミ 5 社乗車) ⇒女性をターゲット、マスコミへの PR という目的を達成 ・京急 Web 内での北陸クイズに 3,566 名の応募あり。クイズ周知のため、京急車両で 1 か月間の中吊り広告を実施し、北陸を PR

(3) セールスプロモーション活動の充実

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行関係団体、出版社 計 20 社訪問 ・映像制作会社 10 社 訪問 ・北陸のイベント情報、北陸物語による素材提案による誘客 ・北陸フォーラム開催に伴う働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さくとも、変わった新しいイベントをすると注目が集まり、特集しやすい ・生の情報がすぐに欲しい ・数行でいいので、頻繁に情報を入れてほしい等 ⇒できることから随時実行。効果的手法であると評価

2. 北陸三県が一体となった広域観光の推進

(1) 「北陸デスティネーションキャンペーン」(H27 年度) 実施に向けた取組み

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 北陸三県の官民共同による北陸デスティネーションキャンペーン実行委員会への参画 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会から、北経連 HP(北陸物語)内にて DC の PR を掲載希望あり

(2) 北陸広域連携プロジェクトチームによる広域観光事業および推進策の検討

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 北陸広域連携プロジェクトチームによる広域観光事業および推進策検討 	<ul style="list-style-type: none"> 広域観光委員会におけるイベント企画案などの意見・評価を受ける場として大変有用

3. インバウンド観光の推進

(1) 外国人観光客向け情報の発信、誘客活動の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 「西日本広域観光ルート検討会（西日本経済協議会）」への参画 タイとの経済交流会議「Otagai Conclave」の開催 (2/20 金沢 参加者：北陸関係者 50 名、それ以外 80 名（内タイ関係者 8 名）) 「昇龍道プロジェクト推進協議会（北陸信越・中部運輸局等）」への参画 北陸物語の台湾向け繁体字版 1,000 部発行 	<ul style="list-style-type: none"> 応分の負担により、継続して参加 同行の現地テレビ局がタイで北陸の観光地を放映 ⇒TV 映像が好評につき、20 名程度の団体が北陸を観光する具体的な商談に発展 応分の負担により、継続して参加 富山、小松、能登空港を中心に配布予定 ⇒能登空港から 300 部送付依頼あり

Ⅲ. 産業振興 [先端技術推進委員会]

1. 産学官連携・知的資産経営の促進によるイノベーション創出の支援

(1) 北陸の中堅・中小企業と大手企業、大学・公設試験場等とのマッチング支援

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・個別マッチング件数 48 件内、技術連携等の具体的な検討まで繋がった件数 20 件 ・「北陸ライフサイエンスクラスター(※1)」や「新ヘルスケア産業フォーラム(※2)」と連携した企業や大学への参加募集や情報提供 ・北陸技術交流テクノフェアへの出展 (ブース来場者 400 人,技術相談 20 件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業間や産学官の個別マッチングに注力した結果、昨年と同程度の実績を確保 ・技術開発だけでなく、販路開拓や事業範囲拡大に繋がる多様なマッチングができた ・さらに効果的なマッチング支援を行うため、企業や大学との連携ネットワークの充実・拡大が必要 ・企業や大学との交流が深まり、北経連と関係者とのネットワーク拡大と技術ニーズ・シーズのマッチング支援を行うことができた ・医工連携をテーマにベンチャー企業や大学の活動を展示・紹介した結果、昨年を上回る来場者、技術相談があり、関心を集めた

※1 総合調整機関:北陸産業活性化センター ※2 事務局:名古屋大学, 中部経済連合会

(2) 人材育成・技術力アップのための情報交換会の開催

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTをテーマとする「高信頼システム情報交換会(北陸先端大と共催)」及び技術経営を支援する情報連絡会の実施 (6回、延べ391名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信分野の動向や経営の技術面を支援する情報が得られる勉強会として定着 ・参加者満足度も平均9割強(目標8割以上)

2. 生産性・付加価値向上のための企業間連携の支援

(1) 新産業発掘のための講演会・セミナーの開催

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会・セミナーの開催 (6回、延べ458名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進技術の情報提供や意見交換が行われる有効な交流の場となっている ・参加者満足度も平均9割強(目標8割以上)

(2) 新産業の創出に向けた調査研究の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 次世代ロボット研究会・北陸 (4回開催) [メンバー：大学・高専の研究者 27名と企業 16社] コンバートEV(※)事業化研究会 (3回開催) ※ ガソリン車の電気自動車化 [メンバー：3県と企業 6社] 	<ul style="list-style-type: none"> 見学会・講演会については、研究会メンバーに加え、北経連会員も参加し、幅広い視点で意見交換を行うことができた 地元企業の技術を大学や研究機関に紹介するなど、マッチングに繋がった 研究会メンバーは、EV技術や市場の動向について、最新の情報を得ることができた コンバートEVの実用化には困難な課題が多いが、電気自動車にも応用できる機器の開発について企業間連携の動きが出てくるなど、有効に活用されている

(3) 先進技術を活用した自治体地域振興事業支援

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 「富山市環境未来都市」推進協議会への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 北経連が紹介したメンバーと連携し、事業の進展に協力している（全14プロジェクト中、薬用植物栽培工場、電気自動車等の6つのプロジェクトに、北経連から企業・研究者を紹介し参加）

3. 企業誘致の推進 [関連組織：北陸国際投資交流促進会議]

(1) 大規模産業展示会への出展を通じた国内企業の誘致

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 大規模展示会出展 (2回：名古屋、千葉) 首都圏での「北陸フォーラム」の開催 (2/3) 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり企業が多く集まる展示会等で北陸への誘致をPRし、アンケートにより要望等を把握できた 講演会に約1,000名、懇親会に約1,300名と多数の参加があり、首都圏のキーマンに北陸の良さをPRする貴重な機会として活用

(2) 海外からの投資促進に向けた情報発信

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 海外から北陸への誘致に向けた「北陸ブランド制作」の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家より「北陸ブランド」に関するアイデアを募った 「北陸ブランド」案数点を分科会に提示、最終案の絞りこみを実施

IV. 国際経済交流 [国際交流推進委員会] [関連組織：北陸 AJEC]

1. 東アジア市場をターゲットにした企業の取組みの支援

(1) 会員ニーズに基づいた情報提供、調査事業の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ジェトロ・アジア経済研究所との連携研究、報告書の取りまとめ ・外国人留学生の活用、グローバル人材の育成に資する講演、勉強会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化時代に北陸企業・地域が ASEAN とどう向き合っていくかをテーマに、機械、繊維、医薬品など北陸の主要産業の ASEAN ビジネス戦略、そして企業が ASEAN でのビジネス展開を円滑に進めるために必要な北陸三県、国、関係機関等の施策について時宜にかなった提言を行った ・外国人留学生の活用、グローバル人材育成について産学官が協議し報告書を取りまとめた

2. 東アジア諸国との経済交流の実施

(1) 東アジアの企業、経済団体等との定期交流、商談会等の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・海外視察会(アセアン「メコン地域・南部経済回廊」)の実施 ・第 14 回北陸(日本)・韓国経済交流会議の開催 (11/19～22、韓国・大邱：参加者：北陸側 50 名、韓国側 70 名) ・タイとの経済交流会議「Otagai Conclave」の開催 (2/20 金沢 参加者：北陸関係者 50 名、それ以外 80 名 (内タイ関係者 8 名)「北陸から新興アジアへの展開」「観光クラスター連携」の 2 部構成 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地情報、専門家の意見を視察報告書として取りまとめ、北陸企業・地域に発信できた ・「北陸・韓国間の経済交流拡大の為の共同調査」覚書調印 ・富山大学 和漢医薬学総合研究所と大邱韓医大学間で漢方・韓方の共同研究で合意 ・北陸ライフサイエンスクラスターと原州、大邱の 2 ヶ所の医療クラスターの連携可能性調査の実施で合意 ・ほっとリハビリシステムズの介護システムの現地視察(福井)の実施を決定 ・両国間の地方間のクラスター連携強化が目的の一つ。 ・タイ政府関係者 8 名が参加 ・今回の会議を契機として下記展開を期待 <ul style="list-style-type: none"> -漢方薬での連携 -新技術連携 (炭素繊維など) -タイからの Inbound 観光推進 -金沢市とタイとの観光連携 -3 県とタイ工業省との連携 -3 県の大学と ASEAN の大学との連携 -北陸とタイとの定期的経済交流会議

V. 地域力の向上に向けた取り組み [総合対策委員会]

1. 国等に対する提言

(1)政策要望活動の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度 政府予算等に対する北陸経済界からの要望 (8/7) 西日本経済協議会要望 (10/18) 三経連要望 (10/23) 	<ul style="list-style-type: none"> 要望項目 56 → 前進 17、現状維持等 39 北陸新幹線の敦賀までの大幅な工期短縮による早期開業、大阪までのフル規格による全線整備に向けた働きかけが必要 原子力は「重要なベースロード電源」と明確化されたものの、原子力運転再開に至っていない

(2)行政当局・政党との勉強会等の実施

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会 (2/19) 中部経済産業局・近畿経済産業局との懇談会 (3/3) 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換・質疑応答が活発に行われたことから、有意義な懇談会となった

2. 活力あふれる自立した北陸圏づくりの推進

(1) 第三次中期アクションプランのPDCAの実践による継続的な改善

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 事業実績評価を踏まえ、H26 年度事業活動方針を策定 (1/31) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動方針に基づき、各委員会にて事業計画を策定

(2) 北陸圏広域地方計画の実現に向けた取り組みおよび 国・3県の活動のフォロー

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 国・3県の活動フォロー 進捗状況の報告・確認 (H25. 10) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づき着実に進捗

3. 低炭素社会の形成に伴う環境ビジネス創出の支援

[関連組織: 北陸環境共生会議]

(1) 低炭素社会の形成など、新たな課題への取り組みの支援

実施内容	効果の確認・評価
<ul style="list-style-type: none"> 北陸三県環境フェアへの出展 実験教室等に計 311 名が参加 環境セミナー等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 行政、NPO が集うことで、ネットワークが形成され、今後の協働に大いに役立つものと期待 各県の評価もあり、継続実施

平成25年度 決算報告書

1. 貸借対照表 平成26年3月31日現在

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金・預金	28,944,946	西経協引当金	3,000,000
敷金(北国不動産)	1,343,200	創立50周年事業引当金	5,500,000
		北陸新幹線開業 関連事業引当金	3,000,000
		情報機器等整備引当金	1,500,000
		退職給与引当金	227,064
		敷金(北国不動産)	1,343,200
		未払金	0
		納税預かり金	39,453
		剰余金	15,678,429
合計	30,288,146	合計	30,288,146

2. 収支計算書 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費収入	79,570,000	事業費	47,732,275
協力金	700,000	会議費	3,617,173
雑収入	62,283	人件費	10,091,010
引当金戻入	-	事務費	17,695,276
		引当金	2,700,000
前年度繰越金	17,181,880	剰余金	15,678,429
合計	97,514,163	合計	97,514,163

平成25年度 北経連 決算

(予算対比)

(収入の部)

(単位:円)

	平成25年度		差引(B-A)	摘 要
	予算額(A)	決算額(B)		
会費	79,470,000	79,570,000	100,000	
協力金	700,000	700,000	0	
雑収入	50,000	62,283	12,283	
引当金戻入	-	-	-	
前年度繰越金	17,181,880	17,181,880	0	
合計	97,401,880	97,514,163	112,283	

(支出の部)

(単位:円、摘要は万円)

	平成25年度		差引(B-A)	摘 要 (万円未満 切り捨て)
	予算額(A)	決算額(B)		
事業費	46,050,000	47,732,275	1,682,275	
委員会活動費	21,450,000	21,124,670	▲ 325,330	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合対策委員会 194万円 ・ 社会基盤整備委員会 455万円 ・ 先端技術推進委員会 581万円 ・ 広域観光推進委員会 484万円 ・ 国際交流推進委員会 339万円 ・ 広報・組織基盤委員会 56万円
連携活動費	24,600,000	26,607,605	2,007,605	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員懇談会等 592万円 ・ 他経済団体との懇談会等 536万円 ・ 行政との懇談会 169万円 ・ 支援団体への支援(北陸AJEC等) 710万円 ・ その他事業費 652万円
会議費	3,660,000	3,617,173	▲ 42,827	
人件費	10,900,000	10,091,010	▲ 808,990	
事務費	18,300,000	17,695,276	▲ 604,724	
引当金	2,700,000	2,700,000	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新幹線引当繰入 100万円 ・ 西経協引当繰入 100万円 ・ 情報機器引当繰入 50万円 ・ 退職給与引当繰入 20万円
予備費/剰余金	15,791,880	15,678,429	▲ 113,451	
合計	97,401,880	97,514,163	112,283	

監査報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日に至る期間における、北陸経済連合会の決算書を監査致しました結果、正当かつ妥当であることを認めます。

平成26年 5月 7日

北 陸 経 済 連 合 会

監 事

杉本 勇壽



荒井 由泰

